

学校教育目標

たくましく未来を拓く児童の育成

かしこく
(しっかり考え学ぶ子)

やさしく
(思いやりのある子)

たくましく
(心も体も元気な子)

成長し続ける子

研究主題

「わかった できた もっとやってみたい」を実感する児童の育成
～数学的活動を重視した学習過程の工夫を通して～

【教育の今日的課題】

- 変化の激しい知識基盤社会の中、求められる「生きる力」
- 知識および技能の習得、判断力、表現力等の育成のバランスの重視

【算数科の目標】

- 数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を理解し、身に付ける。
- 日常の事象について数理的に捉え、見通しを持って筋道を立てて考え、目的に応じて表現する力を育てる。
- 数学的活動の楽しさや数理的処理の良さに気付き、学んだことを生活や学習に進んで活用しようとする態度を育てる。

研究目標

算数科の学習において、「わかった できた もっとやってみたい」を実感する児童の育成のため、数学的活動を重視した授業実践を通して、指導の在り方を明らかにする。

目指す児童像

- 問題場面や本時の学習課題が分かり、自力解決のための見通しを持つことができる子
- 既習事項を生かし、自分の考えを図や数直線、半具体物の操作等の数学的活動を用いて、自力解決することができる子
- 本時のまとめを生かして適用問題に取り組み、家庭学習への意欲を持つことができる子

【児童の実態】

- 明るく素直で、与えられた課題に対してまじめに取り組む。
- 課題を難しいと感じたり、苦手なことがあったりすると、途端に意欲をなくす児童が多く、算数への関心・意欲が低い。
- 問題を解決するために、正確に問題を読み取る力が弱く、図や数直線をかきこくことの経験が少ない。
- 非認知能力が低い児童も見られる。

【昨年度の市学力テストの結果から】

- 本校平均正答率は、目標値を大幅に下回っている。
- 平成30年度と同様、算数への関心・意欲・態度が低い。

下学年

最後まであきらめず、
自信をもって学習に取り組む子

上学年

自力解決したり、伝え合ったり、
主体的に学習に取り組む子

研究の視点

- 【視点1】 課題解決のための学習過程に合わせた数学的活動の工夫
- 【視点2】 既習事項を想起し、解決の糸口をつかませるための学習環境の工夫
- 【視点3】 児童の実態に応じた適用問題の提示

日常の指導

- 基本的な生活習慣の確立（挑戦カード）
- 学習習慣の確立（あすなろカード、家庭学習レベルアップ作戦）
- 日々の授業実践の交流（リレー授業）
- あすなろタイムの活用